

## 「翠ヶ丘まちづくり協議会」とのタケノコ掘り交流

春の好天に恵まれた4月23日、「芦屋翠ヶ丘まちづくり協議会」より岩野副会長ら8人が「タケノコ掘り交流会」に来訪しました。10時頃ばかぼ温泉駐車場に到着した一行は、簡単な“開会式”の後、一路国正町民輪さん所有の竹やぶに徒歩で向かいました。よく整備された竹やぶに入ってみると一同目を見張りました。「今年のタケノコは凄いね!!」竹やぶのいたるところに“によき、によき”と顔を出しているタケノコを見てビックリしていました。早速スコップやはば広などの道具を取り出して「タケノコ掘り」をする参加者たちでしたが、はじめて参加する子どもたちは1本掘るのにも苦心して大汗をかきながらの収穫でした。



持ち主の民輪さんや国正町の志方さんにも掘るのを助けてもらって、参加者たちは約2時間春の自然とのふれあいを楽しみましたが、「もうこのくらいにしておきましょうか!!」の聲がかり終了となりました。

参加者は予想以上の「収穫」に満足そうでした。12時ごろに“閉会式”をばかぼの駐車場で行き解散となりましたが、その後一行は温泉や食事を楽しんだり、八王子神社へアイスクリームを食べに行ったりして春の1日「宇仁郷」を散策しました。

後日メールで「楽しかった、また来年もタケノコ掘りに行きたい。」との聲が届きました。

(事務局)

## 夏の花苗配布

皆さんの庭先に、配布した花苗のペチュニアやペンタスが咲いていますか？ ボランティア20人が丹精込めてポット上げ作業をし、肥料を入れ、大きくなーれ！ と毎日水やりを欠かさず育て、ちょっと虫の食害に遭いましたが宇仁地区の皆さんや、小学校に今回も配布することが出来ました。

配布日の8時になると次々と引き取りに来られ、花のことを忘れて井戸端会議が始まり、「ひさしぶりやなー元気が？ 足の調子どないや?」「この頃あの人見かけへんけどどないしょってや」「これどんな花？ どんな色？ どれがええと思う?」「うちの隣の人来たか？ 未だやったら隣の分も持って帰るか？ どれがいいかな」さすが隣人愛!! 花苗1株で話の輪が広がりました。花いっぱい運動から話の花が咲きました。どちらの花が大きいでしょう?! 皆さんの笑顔に勇気づけられ、冬の花苗づくりも頑張ります。



(花畑街道部会)

## 2023油谷川ホタル観察会のご案内

油谷川のホタル観察会も11回目になりました。2月の一番寒い時期に、今年も役員皆さんの清掃活動をしてくださいました。観察区域では、毎年ホタルの飛び交う様子が確認できていますが、昨年は天候の条件もあり、残念な結果でした。今年こそ、たくさん飛んでくれますように。



1. 観 察 日 6月3日(土曜日)、4日(日曜日) ※雨天の場合は中止
2. 集 合 場 所 八王子会館前
3. 集 合 時 間 午後7時50分 … 確認のうえ、8時すぎに出発
4. 観 察 場 所 油谷川(高月橋から大歳神社付近) ※午後9時頃八王子会館前に戻り解散
5. 注 意 事 項

- ・長ズボン、長袖、長靴で。 マスクは自由です。
- ・懐中電灯を用意。 草むらには入らないこと。

(里山・川環境整備部会)

## 加西市の地名

加西市の地名について見よう。まず「野上」であるが、これは「野の神」の意味である。「田の神」に対しての「野の神」で、広く牛馬をやしなう野原をいつきあがめて、神の存在を認めたのであろう。そのため、野上の地名の土地に牛馬の守り神(仏)である大日如来などをまつことが多い。加西市の野上町にも大日庵があり牛馬をつれての参詣でにぎわったことは、古老の記憶に残っている。

真言宗の名刹・奥山寺をとりまく集落に、田谷・油谷・鍛冶屋・大工がある。また、美嚙郡の吉川町に法光寺という寺(真言宗)があり、その門前にも油谷・田谷・鍛冶屋とよぶ村がある。これは偶然の一致ではなく、寺院の創立となんらかの関係があると見られる。大工・鍛冶屋は、奥山寺創建のときの大工職・鍛冶職が住みついてできた村と言い伝えており、伝承どおりに理解してよかろう。

さて、「田谷」とは辞典類によると、①開墾地においた管理人の家、②別棟の小屋、③社寺田の田屋守、などとある。ここでは③の意味に近いと思われる。つまり田谷は、奥山寺の寺領としてひらかれた田畑を耕作した百姓たちの村をあらわす地名と考えられる。「油谷」についてはまったくわからない。あるいは「湯谷」の意であろうか。想像をたくましくすれば、奈良・平安期の寺院がもっていた「湯屋」とつながりがあるのかもしれない。湯屋とは単なる風呂の意ではなく、治療院(病院)の役割を果たしていたという。

「玉野」は『播磨風土記』に「玉野の村あり」と記され、また玉丘古墳(現三木市)に隠れ住んでいた億計(後の仁賢帝)と弘計(後の顕宗帝)の2王子が、針間鴨の国造許麻の娘・根日女に求婚したことをのせる。そして、おたがいにゆずりあっているうちに根日女が死んでしまったので、山部の小楯に命じて朝日夕日が十分にあたるところに墓をつくり、玉をもって飾らしめたという。古代の玉野は、おそらく玉造部(たまつくりべ)の一族が住んでいた集落だったと思われる。

また、玉野には説教ガチあるいはアヤツリガチとよばれる小字(こあざ)があって明治の中頃まで、中世以来の伝統をほこった人形浄瑠璃の一座が住んでいたという。古代・中世の玉野は、散所的(さんしよ)性格をそなえた村だったのだろう。

東高室・西高室はもとは一つの村であったと考えられる。村の起こりとしては、西の方が早いのではなかろうか。「高室」とは、盗掘されポッカーリと口を開けた古墳をさすのであろう。高室の周辺にはいまなお多くの古墳が残っているが、かつてはさらに多くの塚があったと想像できる。それらがかなり早い時期(鎌倉期以前)に掘られ、口をあけた円墳を後の人たちは、高い室(むろ)とよび、やがてその近くに集落ができると、地名になったと思われる。

～吉田省三著「加西市の民話と史話」より転載～

## 宇仁郷のあゆみ 第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達⑮

### 宇仁郷まちづくり協議会

#### 7. 「加西市まちづくり大賞」の受賞

平成22年11月14日、健康福祉会館で開催された“加西市安全・安心まちづくり市民大会”において、宇仁郷まちづくり協議会は中川市長より「加西市まちづくり大賞」の表彰を受け、常峰八郎副会長が協議会を代表して受領しました。

表彰の対象となった理由は「加東市と連携を図り、中国道泉バス停・根日女の湯から播磨中央公園・滝野駅を結ぶコースを観光ルートとして開発に取り組んだこと、地域住民と地元観光業者とがタイアップして平成20年度から“宇仁の里・花畑街道コスモスまつり、菜の花まつり”を開催し、ハイキングや宇仁の朝市で地場産農産物の販売などを行って都市住民との交流を図るとともに地域の活性化と景観形成に貢献した。」ということでした。受賞は、宇仁地区6町の皆さんの地域活性化への取り組みの成果であるといえます。



### 編集後記

宇仁郷通信をいつもご購入いただきありがとうございます。2009年3月の初版発行から数え167号まで進み、15年目に突入しました。これもひとえに執筆および編集・校正でお世話になっている方々のおかげと深く感謝しています。今後も継続していくために宇仁郷の皆様の格別のご支援とご協力をよろしく願います。なお、原稿等につきましては、unigou-jouhou@outlook.com または情報部会長個人アドレスまで送信ください。(情報部会)